

第8回飛騨高山

学生家具デザイン大賞で金賞受賞

広島工業大学

環境学部環境デザイン学科4年

池上 大地



昨年9月に岐阜県高山市主催にて行われた「2003飛騨・高山暮らしと家具の祭典」の関連行事として「第8回飛騨・高山学生家具デザイン大賞」という学生を対象とした家具のデザインコンペティションが実施されました。私はこのコンテストに応募、そして金賞を受賞いたしました。

異分野へのチャレンジ

8 昨年の春先にこのコンペの存在を知り、分野的には現在私の学ぶ建築とは少々異なるものではありませんでしたが、元々家具デザインに興味があったので応募しました。テーマは「バリアフリーのベンチ」。私は従来のような形状に頼るものではなく、人々のふれあいを持てる空間を創り出すことによって、様々なバリアを解



学生家具デザイン大賞作品

消しようと考え、「やどり木」という作品を制作し応募しました。これは屋根により集まる人々の距離を近く感じられるようにし、それを曲がった柱が支えるというものです。この柱は人の動作を支えるものになると同時に、その色が土地勘の無い観光客へ場所を示すサインの役割を果たします。そして夜にはベンチからこぼれる柔らかい光が周囲を照らします。

1ST surprise

提出も済ませ、コンペの事などすっかり忘れていた7月半ば、飛騨から一通の封書が届き、今回の「やどり木」が金賞に選ばれたということでした。この受賞

の知らせは喜びというよりはむしろ驚きの勝ったものでした。

2ND surprise

9月6日、授賞式は岐阜県高山市の暮らしと家具の祭典の会場で行われました。そこは多くの人で賑わっており、様々な催しが行われていました。中でも伝統の業を今に残す飛騨の家具の数々は木のぬくもりを最大限に活かした素晴らしいもので、長い間見ても飽きがきませんでした。

そんな会場の中を興味深く観て廻っているうちに「学生・家具デザイン大賞」のブースを発見しました。しかも、その正面に実際に試作された私の作品が目飛び込んできました。このことは事前に知らされなかったので大きな驚きでした。同時に、自分がデザインしたものが実際に出来上がるという喜びを初めて感じた瞬間でもありました。他にも入選した4作品が実際に製作され会場内に、ブースには全受賞作品の図面が展示され、同世代の学生達の新鮮なアイデアに直に触れることができました。この得難い経験は非常に刺激的で、後に学科内で家具のコンペ「キャンパスファニチャーデザインコンペ」を主催する素晴らしいきっかけとなりました。

今回の受賞で、異なる分野でのチャレンジは刺激的で素晴らしい経験を得られることを実感しました。



実際に製作された受賞作品「やどり木」